

# 討論

**日本共産党議員団**  
平成28年度三条市一般会計予算について反対

一般任用職員は、基本的に不安定雇用である。地域の雇用が大変な中、市役所が率先して、このような制度を続けることに反対。

三条商工会議所への加入率は50%と市内事業所の半分でしかない。小規模事業者にも目配りをし、責任を持って商工行政を進めていくべき。

さんじょう一番星育成事業は、エリート育成を推し進める目的であり、公教育の役目ではない。

子どもたちに差別のない教育、幅広く人権の尊さを教えることは大切だが、同和教育という特別枠で教える必要はなく、県同和教育研究協議会負担金の支出に反対。

**三条市国民健康保険条例の改正および予算について反対**

来年度も引き上げをすると、国保税額は6年前より2万5267円もの負担増になる。被保険者には限界であり、市が一般会計から応援すべき。

**議員報酬と特別職の給与引き上げに反対**

来年度予算案の歳入は、市民税の個人・法人の合計額は今年度当初予算と比べ約3%の減収見込み。議員報酬と特別職の給与引き上げは、市民感情として容認できないもの。

**自由クラブ**  
本定例会における全ての提出議案に賛成

平成28年度三条市一般会計予算は、総合計画に掲げる将来都市像の実現に向けた施策に加え、大崎中学校区小中一体校建設事業や嵐南保育所移転改築事業などの教育・子育て環境の整備、市民交流機能等を備えた体育文化センターと総合体育館の複合施設の整備、老朽化した公共施設の維持補修などに重点的に配分し、主要財政指標に目配りしつつ、これらの建設事業を踏まえた財政シミュレーションを行い、長期的な観点から見てもしっかりとした財政運営を維持することができると見解を示された。

国民健康保険事業は、国県や市が公費を負担して行う法定内繰り入れはともかく、法定外繰り入れを行うことは国保加入者以外の市民に負担してもらうことであり、基本的に避けるべきである。平成28年度は、1人当たりの国保税額の上昇を対前年度比で1.4%に抑え、ジェネリック医薬品の利用促進や被保険者の疾病予防と健康増進を図り、国の交付金の獲得に努めて県平均を上回る収納率を確保していることなど、国保財政の健全化に努めている。



# 一般質問

ダイジェスト

市政の  
? を  
問いました

議員と行政の  
Q&A



**子ども医療費助成、通院も中学卒業まで拡充を!**

**問** 三条市の子ども医療費助成の現状は県内で最下位だ。どの子ども通院も中学卒業まで助成を広げてはどうか。

**答** 近隣の助成、市の財政状況を総合的に勘案し毎年度の予算編成を考えていく。

**豪雪時、子どもの通学について**

**問** 1月末の豪雪、除雪が間に合わず通学にも大きく支障が出た。通学路の除雪や保護者への連絡、休校の判断など体制整備が必要と思うが、どのように考えるか。

**答** 歩道除雪計画に基づき行っているが、今回は緊急車両の通行を考え車道除雪を最優先に指示を出した。今後、1月の大雪のようなときは災害として捉え、防災会議で体制を検討する。

**三条小学校廃校後の特別支援教育は、どうなるの?**

**問** 年度内に新たな配置校を決定するということがあったが、どのようにになったのか。

**答** 裏館小に言語障がい、難聴の2



次代を担う子どもたちのために

**JR保内駅の西口を設置してはどうか?**

**問** 保内地区のまちづくりを考える場合、JR保内駅は中心的存在である。地区を俯瞰するとJR保内駅に近いところから公民館、保育所、子育て支援センター、小学校、公園、県文化財指定の三王山古墳群などがある。駅西側には国道403号が走り、金融機関、飲食店、コンビニなどが軒を連ね、地区としては、いわば玄関口的エリアとなっている。また、木質バイオマス発電所の建設を控えている工業団地、三条市の外れに位置するがJR保内駅に西口が設置されれば、そこからすぐに歩道で接続される交流拠点施設が近々オープンする。また、1キロメートルほどに及ぶ桜並木の名所もある。数々の地域資源を持つ保内地区

**答** 室、一ノ木戸小に発達障がい、栄庁舎教育センターにサテライトとして発達障がい、言語障がいの2室を設置していく。  
**問** サテライトというが、学校ではない所で可能なか。  
**答** 訪問型で法に触れる問題ではない。

**答** のさらなる活性化策として、人口減少社会にあらがうべく地区の移住人口増加とさらなる安心・安全度を高めるため、公共交通をより効果的に生かすべくJR保内駅西口設置構想を提案する。整備の可能性について改めて頭を巡らせる。



保内駅全景